

2023年11月実績概要（メモ）

（2023.12.21）

本年の誘導品の定修も終盤に差しかかり、生産調整下のもと生産面での不揃いの状況が続く。

1. 生産動向

イ) エチレン 468,700トン

前月比 +4.8% (+21,300トン)

前年同月比 ▲0.4% (▲1,900トン)

生産増減に係る諸要因	<前月比>	<前年同月比>
日数増減	▲ 3.2 %	—
定修要因等	+ 6.1 %	▲ 3.1 %
能力増減	—	+ 0.3 %
稼働率変動	+ 1.9 %	+ 2.4 %
生産増減率	+ 4.8 %	▲ 0.4 %

稼働プラントの実質稼働率試算：前月82.6% → 当月84.1% ← 前年同月82.2%

定修プラント：前月なし → 当月なし ← 前年同月なし

2023年1～11月累計生産量 4,840.7千^ト 前年同期比 ▲1.8%

ロ) 主な石油化学製品

前月比は、日数減少に対し定修規模差等から、LDPE、HDPE、MMAモノマー、SBRなどの8品目はプラスとなった。PP、塩ビ樹脂、塩ビモノマー、EO、EG、AN、BRなどの9品目はマイナスとなった。

前年比は、稼働率要因等から、PP、PS、SM、EO、EG、AN、BR、トルエン、キシレンどの13品目がマイナス。HDPE、塩ビ樹脂、塩ビモノマー、SBRの4品目のみはプラスとなった。

2. 樹脂の生産・出荷状況（LDPE、HDPE、PP、PS）

イ) 生産

前月比は、日数の減少があるものの、LDPEは定修規模の縮小、HDPEは稼働率要因からそれぞれプラスとなった。PPは定修規模の増加もありマイナスとなった。

前年比は、稼働率要因を主としてLDPEは前年並み、HDPEはプラス。PP、PSはマイナスとなった。

ロ) 国内出荷

長引く物価上昇の影響が尾を引いており、消費マインドも先行きの見通しからも足踏みが続く。国内の生産活動は、11月は生産機械、紙パ等の増加見通しのある中、全体では若干の低下する見通しだが、生産マインド自体は強気の見通しが続いている。

汎用樹脂の出荷は、前月比は、10月はやや弱含むも当月は、これを辛うじて上回り、LDPE、HDPE、PP、PSの4樹脂ともにプラスとなった。

前年比は、LDPE、HDPE、PPの3樹脂は前年割れとなった。いずれも11月単月の出荷量としては近年では低水準の出荷となり、用途別にみても、フィルム等の包材関係は引き続き前年を下回る状況が続いている。その一方でPPの射出成形分野の出荷は輸送機械関連の生産増加に伴い前年を上回る出荷が継続している。

また、当月は、PSは包装分野、雑貨・産業分野、FS分野の出荷がいずれもプラスとなった。

ハ) 輸出

アジア域内の需要面での改善は未だ見られていないが、前月比はHDPE、PSはプラス。LDPE、PPはマイナスとなった。前年比では、LDPE、HDPE、PSはプラス。PPのみはマイナスとなった。

ニ) 在庫

在庫量は、前月に対して、LDPE、PP、PSで減少、HDPEのみは増加した。在庫率(季節調整済)は、LDPE、PP、PSは低下、HDPEは前月並みとなった。在庫水準としては、HDPEは高め、LDPE、PP、PSはほぼ適正水準となった。

	前月対比増減量 (単位:トン)	季節調整済在庫率 (単位:ヶ月)	
		10月末	11月末
LDPE	▲ 4,000	3.4	3.2
HDPE	+ 4,500	3.5	3.5
P P	▲ 21,000	3.2	2.9
P S	▲ 7,800	1.9	1.6

以上